

川柳 さいたま



ユリオプスデージー

鳴り物や指し物とSINGING

願法みつる

十一月号 目次

年間を通じて世に各種の競技が行われ、応援団が、鳴り物・指し物で氣勢を上げている姿は微笑ましい。野球やサッカーの試合あるいは子供たちの運動会などを観てしみじみと思う。これらは人間の情緒がもたらすものだろうが、奇しくも孫子が人々の心を一つにする方法即ち兵法として述べている言に通じている。

「言うも相聞こえず故に金鼓をつくる。視るも相見えぬ故に旗旗をつくる。金鼓、旗旗は人の耳目を一にする所以なり」と。つまりこれらは情報伝達だけではなく、組織の意思統一の方法であると喝破している。

更に孫子は、こうして一体として管理された集団から、勝手な行動をとる個人を輩出させないためには、情と規律の兼ね合いが必要であると説いている。明言は避けているがそれは、性善説と性悪説の混在であるような気がする。所詮、組織の管理とは人の和の作意であり、金鼓、旗旗もまた必須なのである。

吟社では昨年、幟旗を製作して大会会場や月例句会場に掲示している。これに鉦や太鼓も取り揃えると、何やらちんどん屋の様相を呈するか。しかし明るく活気のある吟社を目指すには、面白い発想かも知れない。

堅太郎句抄(二十二)	表紙	2
巻頭言 鳴り物や指し物ということ 願法みつる		1
彩玉集—同人吟	戸田美佐緒	6
私の柄井川柳	願法みつる選	9
雑詠	石田 正則	9
映像川柳	松田重信選	18
七七句	文・今村 寿子	22
古丘の世界	松田 重信	23
あなたからわたしから	加藤孤太郎	26
交替鑑賞		24
初歩添削講座「いよいよ」雑詠		30
題詠 「橋」	四分一周平選	34
「久しい」	岡野 輝男選	32
「ふんだん」	潮田 春雄選	34
私と化学 その3	石田 隆宏	32
さいたま十月句会		34
大会等ご案内		39
編集さろん		3
句会案内		4
表紙(題字・清水 美江 写真・千葉 古丘)		4

平成25年

11月号 (No.648)

日川協加盟